

学校だより

2023年7月から 8月までの資格試験一覧

この期間に日専校生が取り組んだ資格・検定試験の一覧を記載する。

- 7月5日 技能士電子機器組立て作業3級実技、7月9日 日学科(2年電気科)
- 7月6日 技能士普通旋盤作業2級実技、フライス盤作業2級実技(3年機械科)
- 7月9日 実用英語技能検定二次(全学年)
- 7月12日 技能照査学科(3年機械科)
- 7月29日 危険物取扱検定(全学年)
- 8月27日 技能士電子機器組立て作業2級学科(3年電気科)

1年生溶接実習体験

7月3日と4日の2日間にかけて1年生が『溶接実習体験』を行った。初めに安全朝礼「2、3年生による見本」、安全教育として「溶接とはどんなものか」「どんな製品に用いられる作業であるか」「溶接作業における危険因子」等を学び、溶接科の2、3年生から指導を受けて実際に「溶接作業を体験」した。体験後に「感想の発表」「技能五輪に



1年生溶接実習体験

ついでで紹介」までを行った。両日が夏日となり、大粒の汗を流しながら保護具を装着し、被覆アーク・半自動溶接機を使い、溶接作業を行った。初めて行う溶接に緊張し、上手にアークスタートが出来なかったが先輩たちの指導を受け、何度も練習をするうちに、個人差はあったが上達出来た。体験した感想として「溶接をしている先輩の姿がカッコいい」「始めて溶接をしたが興味を持った」「練習をするたび上手にビードが引けるようになり嬉しかった」「暑さが厳しすぎる」「保護具が重く動きづらい」など様々に話してくれた。指導をしてくれた2、3年生からは「教えること・伝えることの難しさを感じた」「一生懸命に教わろうとする1年生を見て嬉しくなった」など感想があり、こちらもとても良い

経験になったと感じている。今回の体験は10月に実施されるコース分けを考える参考として貰うのが目的であった。暑い中であったが、体調不良や怪我もなく、無事に終了することが出来た。

科技高生活体験発表大会

7月5日、第56回科技高生活体験発表大会が東京都世田谷区の科技高本校体育館において開催された。コロナ禍の影響で、参加者が一同に会して行われるのは4年ぶりであり、参加者は科技高本校および各連携校から選ばれた8名であった。日専校からは3年溶接科の中村穂乃香が参加し「言葉の力」と題して中学および日専校での体験を熱く語った。結果は優秀賞であったが、内容、態度とも最優秀に引けを取らない大変立派なものであった。なお、発表要旨は次の通り。



科技高生活体験発表大会

3年溶接科 中村 穂乃香

私は中学3年の時の担任に対して、マイナスイな感情しか抱いていませんでした。しかし、日専校受験を機に心境が大きく変わりました。それは担任から掛けられた「言葉の力」によってでした。そして日専校に入ってから、この言葉を事あるごとに思い出し生活しています。おかげで充実した学校生活を送ることが出来ています。最近では高校から始めた剣道で二段に昇段することができました。今後も「言葉の力」を信じ、これからは言葉をかける側になれるといいなと思っています。

3年機械科 技能士2級旋盤実技、2級フライス盤実技

7月6日、本校の機械実習場にて3年機械科26名の生徒のうち、19名が国家検定の普通旋盤、7名がフライス盤の資格取得を目指して実技試験に挑んだ。これらの資格を取得するにはレベルの高い汎用機の加工技術を要するため、週11時間の実習授業内では、高校生にとって極めて難易度が高い。そのため生徒達は、放課後の時間を利用して担当職員に補習授業を積極的に受けるなど、合格を目標に日々練習に励んだ。本番当日は、職業能力開発協会担当者の立会いもあり、通常の練習とは異なる雰囲気の中試験に臨んだが、生徒達はこれまでの練習の成果を存分に



技能士2級旋盤実技、2級フライス盤実技

全国高等学校野球選手権大会 茨城大会 全校応援

第105回全国高校野球選手権茨城大会が7月8日に開幕し、ノーブルホームスタジアム水戸で開会式が催された。新型コロナウイルスが五類感染症になったのを受けて、4年ぶりに96校89チームの選手が勢ぞろいし、開会式に臨み、甲子園をかけた熱戦が展開された。大会では選手宣誓、声を出す応援、試合後の校歌斉唱も4年ぶりで解禁された。日専校(科学技術学園高校日立)も応援団と吹奏楽部が練習を重ね、全校応援の準備を進めた。初戦は7月9日に土浦第三高校と日立市民球場で戦った。1回裏に満塁ホームランを交えて6対0

(7頁へ続く)

(6頁の続き)

でリードしたが、その後徐々に得点を許し、結果、7対16で敗れた。今年には初戦敗退となったが、選手、応援団、全校生徒職員は一致団結し、精一杯のプレーと応援を展開した。



全国高校野球選手権大会茨城大会

野球部主将 3年機械科佐野 鼓太郎
暑い中、野球部を応援して頂き、ありがとうございます。昨年の夏の大会では県ベスト16という結果を出し、今年もその波に乗ろうと日々の練習に取り組んできました。しかし、勝負というのは、そんなに甘いものではありませんでした。高校野球は終わってしまいましたが、本当の目標はこれからです。夏の大会など高校での野球生活を人生の大きな経験として、これからの会社生活など日々役に立ってまいります。これからも応援よろしくお願い致します。

オープンスクール

少子化の進む時代、受験生の確保が難しくなる折に、7月22日に本年度第1回目のオープンスクールが実施された。「行きたい学校を選択」から「行ける学校に進学」という時代に変わりつつあるが、「モノづくり」に興味のある生徒を全国から幅広く集めようと、学校一丸となって取り組んでいる。今年はずでに600校以上の中学校を訪問し、学校のPRに努めているが、それでも生徒確保が厳しい状況である。参加してくれた中学生は、日専校の良さを体感し、先輩とのコミュニケーション・体験実習を通して好感触であった。これが受験につながることを願いつつ、同窓会会員の皆様にも、身内や職場の中学生をもつ仲間にも声をかけて頂き、日専校のPRをお願いしたい。ぜひ学校のホームページもぞいてみてください。



オープンスクール

micro:bit ワークショップ

7月29日、日立市の日立シビックセンター科学館(サクリエ)において、プログラミング教材「micro:bit」を活用したワークショップを開催した。小中学生に向けた、次世代のモノづくり人財育成のためのアプローチは急務であるが、コロナ禍で思うように実行でき



micro:bitワークショップ

ず、歯痒い思いをしていた中で、やっと実現したものである。午前は事前申込制、午後は申込不要で自由に遊んでもらう形式で実施し、一日を通して大変な盛り上がりを見せた。また当日は日専校2年生2名にも手伝いをしてもらったが、子どもたちに目線を合わせて話す、レベルに応じていくつかの遊び方を提案するなど、臨機応変に対応してくれて感心した。今後も年に数回、プログラミング教

室等の開催などで「日立のモノづくり」を盛り上げる取り組みを続けていく。同窓生の皆さんも、ぜひ遊びに来てください。

茨城進学フェア

茨城県内の高校を中心として、各学校の入試担当者による面接形式の進学相談会「茨城進学フェア」(茨城教育研究会主催)と「茨城県進学フェア」(親子進路応援センター主催)が毎年、県内各地で開催されている。このフェアは入場無料、入退場自由、どなたでも参加ができ、進路相談、各学校の案内や入試関係資料の入手ができる。このうち、8月6日には筑西会場で、8月20日には日立会場で開催され、日専校も参加してきた。当日は保護者同伴で本校のブースを訪れ、本校の生徒募集グループ職員が学校内容や入試要項を



茨城進学フェア

説明した。今後も、9月3日には神栖会場(アトンプレサホテル)、9月17日には水戸会場(水戸京成ホテル)、9月24日にはつくば会場(つくば国際会議場)で開催される。会場近隣にお住まいの方には是非お気軽に参加をお願いしたい。

若年者ものづくり競技大会

8月1日、2日の両日、ツインメッセ静岡および静岡県工科大学校静岡キャンパスにおいて、厚生労働省および中央職業能力開発協会主催の第18回若年者ものづくり競技大会が開催された。本大会には企業未就業の職業能力開発施設および工業高等学校等の学生や訓練生340名が参加し、15職種で技術・技能を競い合った。本校からは3年生4名が出場し、旋盤職種(20名)において3年機械科の後藤宙那が金賞(第1位)、メカトロニクス職種(25チーム)において3年電気科の鴨川生、松岡怜良ペアが敢闘賞(第5位)、フライス盤職種(20名)において3年機械科の三代健人が敢闘賞(第6位)を受賞した。4名とも部活動と掛け持ちだったため、訓練時間不足により万全の状態では本番を迎えることができなかったが、上位をめざして最後まで諦めずに取り組んだ結果、全員が入賞できたことを大いに称えるとともに、技能五輪での今後の活躍にも

(8頁へ続く)

(7頁の続き)

期待したい。指導者の報告と出場生徒の感想は次の通り。

旋盤職種指導者 鈴木秀一、和田直樹

公開された課題は部品数が2個で加工時間が3時間、2パターンの指定された組立機能に加え、単品寸法組立寸法を公差内に加工するという内容である。緊張感が漂う競技会場で作業準備(工具展開)に取り掛かった直後、多少のトラブルはあったが、持ち前の強い精神力で落ち着いて作業を進める事ができた。翌日の本番では加工入ると普段の練習成果を存分に発揮して作業を進め、標準時間終了10分前には元気よく終了の合図をして提出した。

フライス盤職種指導者 真田正孝、鈴木善勝

今年度の大会では、本校にある設備と仕様が全く異なる設備を使用する事となったため、操作方法等多くの不安要素があった中で大健闘の結果であった。競技は、製作標準時間3時間、2部品を製作する課題であり、技能検定2級に類似した形状であった。競技会独特の雰囲気・慣れない設備を使用する中で緊張した様子も見受けられたが、全体的には落ち着いて作業を進められた。途中、訓練通りに行かなかった所もあったが、冷静に対処できた事で好成績に繋がった。

メカトロニクス職種指導者 齊藤慎、松崎修

競技では2つの課題があるが、第

一課題の「生産設備を仕様書により一部改造」は、例年以上に難易度が高く、制限時間2時間をオーバーしたが3時間24分で合格することができた。第二課題の「第一課題完成装置の改造メンテナンス」は、第一課題の延長での競技となったが最後まで挑戦し、組立配線で部分点をもらうことができた。訓練期間が短かつた中、目標としていた第一課題をクリアできたことは素晴らしい結果であった。競技中お互いに声を掛け合って協力している姿は他の学校に見られず、多くの観客の目に止まっていた。

旋盤職種出場 3年機械科 後藤 宙那

今回の大会では、旋盤職種に出場し、指導していただいた先生方をはじめ様々な方のご協力で「金賞」を受賞することが出来ました。自分が掲げていた目標が「金賞」だったので、それを達成でき、努力してきた甲斐がありました。この若年者もの



若年者ものづくり競技大会 旋盤・フライス盤

づくり大会を通して、学べたことや感じたことを技能五輪などに活かして、事業所で活躍できる人材になれるように尽力していきたいです。

フライス盤職種出場 3年機械科 三代健人

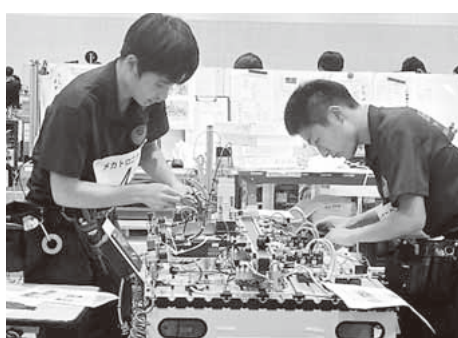
今回の大会では、先生はじめ、様々な方々のおかげで「敢闘賞」を受賞することができました。本番では緊張もあり、ミスをしてしまいました。最後まで諦めることなく課題を提出することができました。ミスをしてしまったという悔しさはありますが、良い経験ができたと感じています。この悔しさをバネに、貴重な経験を活かして、今後は事業所で活躍できるように頑張ります。

メカトロニクス職種出場 3年電気科 鴨川生

今回の大会は「基本を忘れず一生懸命取り組む」という目標を掲げて臨みました。大会を通じて、自身の成長点や今後の改善すべき点を多く見つけることができました。特に「パートナーとのコミュニケーションの重要性」を実感しました。今後は、これらの課題を改善して訓練に取り組み、事業所で活躍できるように努力していきます。最後に、指導してくださった先生方をはじめご支援いただいた皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

本大会に向けては「最後まで諦めずにやりきる」という自身の目標を意識しながら日々の訓練に取り組

みました。そして、少ない訓練期間の中では、技術の向上よりもパートナーとコミュニケーションを取ることを重視しました。迎えた本番では改善すべき技術点が明らかになると共に、パートナーシップの重要性を実感しました。今後、訓練を重ねて自身の課題を改善していきます。最終目標は事業所で活躍できる人材になることです。それが達成できるように努力します。これまで指導してくださった先生方やご支援いただいた皆様に心から感謝申し上げます。



若年者ものづくり競技大会 メカトロニクス

日高中学校の先輩と語る会

8月22日に日立市立日高中学校で「先輩と語る会」が開催され、日専校も参加した。この会は、中学3年生が近隣の高校の概要や特色、入試制度等について理解し、生徒の進路に向けての意識を高める機会で、受



日高中学校の先輩と語る会

験校選択のための一助とするものである。各高校の説明者は、日高中の卒業生で、現中学3年生と中学生生活を共にし、同じく受験に悩んだ直近の「先輩」である。この先輩からの説明は、親身で説得力があり、受験生にとって本当に知りたいことを得られる。日専校の説明者は、3年電気科の小林翔悟、3年機械科の佐藤響介(彼だけは滑川中卒)、105卒日立ハイテク勤務の塩谷斗亜さんである。それぞれ、自己紹介、学校や卒業後の会社生活の説明を、多くの生徒が聴きにきてくれて、質疑応答も活発であった。特に塩谷さんからは日専校の受験動機として、「自分の夢は幸せな家庭を築くことで、日立に入社できればそれが叶うと思い、日専校を志望した」との説明が印象的であった。この会で日専校の説明を聴いてくれた生徒たちから、入学してくれることを期待したい。